

我が班の安全活動

－積極的な安全活動を推進し

災害に絶滅するために－

小坂営林署 鹿山担当区基幹作業職員 成 瀬 謹 市

1. はじめに

私たち鹿山担当区・成瀬班は、現在基職7名で事業を行っています。夏・冬山を通じて、地拵・植付・下刈・除伐など約260haの面積を実行しますが、当部内は大部分が急傾斜地で山足も長く、チマキ笹の密生地が大部分を占めているため、どの作業も苦勞が多く、併せて安全確保にも苦勞しています。

特に、チームワークの充実・安全作業のチェックポイントの設定・作業仕組の改善等で安全活動を進めています。

2. 内 容

(1) 安全目標の設定

① 不変的な安全目標

- 担当区全員が一体となって機能できるような体制づくりとチームワークの充実に努める。
- 安全懇談会やTBMなどのあらゆる機会をとらえ「職場の安全は皆んなで創る」と言う意識を高める。
- 押しつけでなく皆んなの盛りあがり、地から湧き出るような安全活動を推進する。

② 各作業・実行時期の安全目標

- 7月期の安全重点目標
 - ・ 防蜂網・防蜂手袋等保護具を活用し、蜂刺されに注意する。
 - ・ 暴飲暴食に注意する。
 - ・ 刃物にあったカバーを着装する。

③ 安全週間中の安全目標

- 1日(土) TBM充実の日
- 2日(日) 家庭安全の日
- 3日(月) 環境整備の日道
- 4日(火) 道具の点検整備の日

- 5日(水) 安全大会の日
- 6日(木) 交通安全林道整備の日
- 7日(金) 安全週間反省の日

以上のように、安全目標を定めています。

私達の造林事業は、過酷な自然条件の中での作業であり、一つ間違えば大きな災害になりかねないために、今年は安全作業のチェックポイントとして

「確認は確実に、危険な場所では二度確認をしよう」

を合い言葉に、連日努力しています。

昨年6月のある新聞に掲載されておりましたが、結婚式の写真屋さんは決まったように2度撮影をする。より安全を期するためである。万一写真が写っていなかったら、出入り差し止めになるからです。

1台のカメラで失敗する確立を千分の1とすれば、カメラ、照明を別にして2回撮影しそれが両方とも失敗する確率は百万分の1だと言うことができる。ということから、2度確認により災害もぐんと減少することができます。

さらに、個人労働から宇宙ロケットにいたるまで、人間とかかわる機械やそのシステムの安全を高める技術が進んで、安全の確率は高くなったものの、事故の規模も巨大化してきている。複葉飛行機時代の飛行機が墜落しても死者は1人であったものが、ジャンボ機の事故ならば、500人の死を意味する。それ故に安全も500倍にならないと勘定が合わない。造林でも、刈払機等の機械化が進んだ分だけ、より一層安全への配慮が必要である。

また、困難な宇宙飛行をなしとげて地球に帰還したアメリカのグレン中佐が、自宅の風呂場で滑ってころび人事不省になった時、「風呂場より宇宙の方が安全であった」と言っていました。足元の安全が非常に大切です。我が班では、「確認は確実に、危険な場所では2度確認をしましょう」を安全ルールとして毎日作業をしています。

3. おわりに

我が班の安全活動の一部を紹介しましたが、「災害防止に特効薬はない」と言われるように、造林作業基準等の厳守はもちろんのこと、「決めたこと、決められたこと」は必ず守り、不安全行動に対して毅然とした態度でのぞみ、終着駅のない安全活動に向って、無災害の継続に努めています。